

〈特集「ヴォイスとその周辺」〉

トルコ語¹

菅原 睦

(1a) 《風などで》ドアが開いた。

Kapı aç-ıl-dı.

ドア 開ける-PASS-PAST

トルコ語では動詞の自他は一部を除いて形態的に区別されている。例えばこの例文中の自動詞 açıl-「開く(あく)」は他動詞 aç-「開ける」から接尾辞-ıl-によって派生されている。ただしこの自動詞「開く」は(1c)に見られる受動の動詞 açıl-「開けられる」と同形であり、文法書や辞書などでは両者を特に区別しないことが多い。ここでも便宜上同じグロス PASS を用いることとする。²

(1b) (彼が) ドアを開けた。

Kapı-yı aç-tı.

ドア-ACC 開ける-PAST

(1c) 入口のドアが開けられた。

Giriş kapı-sı aç-ıl-dı.

入口 ドア-3SG.POSS 開ける-PASS-PAST

トルコ語ではほぼすべての動詞から接尾辞によって受動の動詞を派生することが可能である。³ (1a)で述べたように açıl-「開けられる」は派生自動詞 açıl-「開く(あく)」と同形であるが、逆に他動詞が自動詞から派生する場合や、他動詞と自動詞が語彙的に異なる場合では、他動詞の受動と自動詞とはもちろん形態上区別される。

¹ 本稿の作成にあたり Ersin Teres 氏(イスタンブール大学文学部)のご協力を得たことに深く感謝したい。むろん誤りはすべて菅原の責任である。

² 派生自動詞と受動の動詞とを明確に区別して扱っているものに Underhill (1985:336-337), 栗林(2010)がある。

³ 自動詞から派生された受動の動詞は、主語をもたないいわゆる「無人称受動文」で用いられる((12)にその例がある)。また上で述べた派生自動詞からも, katıl-「加わる」(<kat-「加える」)から katılın-「加わることが行われる」のような受動化の例が存在する。ただし katılın-は知る限り辞書にはあげられておらず、また他の派生自動詞について同様の受動化がどの程度可能であるかもはっきりしない。なお Göksel - Kerslake (2005:75-77)は以下に取り上げる受動・使役・再帰・相互の接尾辞をすべて inflexional suffix として扱っている。

自動詞	対応する他動詞	対応する他動詞の受動
düş-「落ちる」	düş-ür-「落とす」	düş-ür-ül-「落とされる」
öl-「死ぬ」	öl-dür-「殺す」	öl-dür-ül-「殺される」
kurtul-「助かる」	kurtar-「救う」	kurtar-ıl-「救われる」
yan-「燃える, 焼ける」	yak-「燃やす, 焼く」	yak-ıl-「燃やされる, 焼かれる」

(2) 私は(自分の)弟を立たせた.

Ben kardeş-im-i ayağ-a kaldır-dı-m.
私 兄弟-1SG.POSS-ACC 足-DAT 立たせる-PAST-1SG

使役の動詞も接尾辞付加によって作られる。ただしいくつかの動詞からは使役の動詞がつかれない。例えば kalk-「立つ」に使役の接尾辞がついた動詞は存在せず、「立たせる, 起こす」の意味では kaldır-という動詞が用いられる。⁴ 上の文は実際に手を取って立たせるような状況で用いられるようである。自動詞から形成される使役の動詞では, 被使役者は対格で表示される。

On-u sandalye-ye otur-t-tu-m. 「彼を椅子に座らせた」.
彼-ACC 椅子-DAT 座る-CAUS-PAST-1SG

後述のように使役と他動詞化との間に区別はないが, 自動詞と他動詞が同形となる少数の動詞では, 前者から作られる使役動詞と本来の他動詞とが競合することになる。例えば başla- (1)「始まる」, başla- (2)「始める」に対して başla- (1)の使役にあたる başlat- (1)「始まらせる」が存在する(さらに başla- (2)の使役 başlat- (2)「始めさせる」がある)。しかしここで başla- (2)「始める」と başlat- (1)「始まらせる」との間に日本語のような意味の違いはないと思われる: Ekipler operasyona başladı. / Ekipler operasyonu başlattı. とともに「部隊は作戦を開始した」。⁵

(3) 私は(自分の)弟に歌を歌わせた.

Ben kardeş-im-e şarkı söyle-me-sin-i söyle-di-m.
私 兄弟-1SG.POSS-DAT 歌 言う-VN-3SG.POSS-ACC 言う-PAST-1SG

⁴ ちなみに kal-は「残る」という意味の動詞であるが, この動詞からも使役の動詞は作られず, 「残す」の意味では bırak-が用いられる。

⁵ başla- (2)「始める」は与格名詞句をとるため, 「作戦」は前者では与格 operasyona, 後者では対格 operasyonu で出ている。

söyle-「(歌を) 歌う, 言う」に対する使役の動詞は söylet-「言わせる」であるが, この文では使えないという. ここでは使役ではなく動名詞を用いた間接命令文により「歌を歌うことを命じた⁶」と表現されている. 他動詞から作られる使役の動詞を含む文では, 対格(ゼロ対格を含む)の重複を避けて被使役者は与格で表わされるのが原則である.

Nuran Deniz-e kapı-yı aç-tır-dı. 「ヌーランはデニズに扉を開けさせた」
ヌーラン デニズ-DAT ドア-ACC 開ける-CAUS-PAST

(4a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた.

Anne-si çocuğ-u ekmek al-ma-ya yolla-dı.
母-3SG.POSS 子供-ACC パン 買う-VN-DAT 送る-PAST

git-「行く」も使役が作れない動詞である. git-に使役の接尾辞-Ar⁷が付されたように見える gider-という動詞が存在するが, 意味は「行かせる」ではなく「除去する」である.

(4b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた.

Anne-si çocuğ-un oyun oyna-ma-ya git-me-sin-e izin ver-di.
母-3SG.POSS 子供-GEN 遊び 遊ぶ-VN-DAT 行く-VN-3SG.POSS-DAT 許可 与える
-PAST

許可使役は使役の動詞ではなく動名詞の与格を用いて「... することに許可を与える」という形で表現されるのが一般的である. ただし「... することを許さない」という不許可は使役の動詞で表わすことができる.⁸

Görevli-ye çanta-m-ı aç-tır-ma-dı-m.
係員-DAT かばん-1SG.POSS-ACC 開ける-CAUS-NEG-PAST-1SG
「私は係員にかばんを開けさせなかった(開けることを許さなかった)」

動詞の自他に関して1点補足しておく, 動詞句内部にあった要素が, 対応する使役文において使役者の役割を果たす次のようなペアが存在する.

Stadyum seyircilerle doldu. 「スタジアムは観客で (INST) 満ちた」
Seyirciler stadyumu doldurdu. 「観客はスタジアムを満たした」

Hayvanlar güneş tutulmasından ürktüyor. 「動物たちは日食に (ABL) おびえる」

⁶ 動詞 söyle-は, 動名詞とともに用いられた場合「命令する」の意味をもつ.

⁷ 以下, 大文字は子音の同化や母音調和による交替 (D = d/t; K = k/g; I = i/ü/u; A = e/a) を示す.

⁸ 一種の積極的な行為として強制使役の範疇に入るためであろう.

Güneş tutulması hayvanları ürkütüyor. 「日食は動物たちをおびえさせる」

(6) 私は弟にその本をあげた.

Ben kardeş-im-e o kitab-ı ver-di-m.
私 兄弟-1SG.POSS-DAT その 本-ACC 与える-PAST-1SG

(7a) 私は弟に本を読んであげた.

Ben kardeş-im-e kitap oku-du-m.
私 兄弟-1SG.POSS-DAT 本 読む-PAST-1SG

(7b) 兄は私に本を読んでくれた.

Ağabey-im bana kitap oku-du.
兄-1SG.POSS 私に 本 読む-PAST

いわゆるやりもらい表現は存在しない。動詞 ver-「与える」が動詞の副動詞形に後続して補助動詞的に用いられることがあるが、その場合 ver-は恩恵や利益ではなく動作が急に／素早く行われることを表わすとされる：O anda odaya bir adam giriverdi. 「その時部屋にひとりの男が (急に) 入ってきた」, Kapıyı açiver! 「ドアを (ちょっと) 開けて!」.⁹

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった.

Ben anne-m-e saç-ım-ı kes-tir-di-m.
私 母-1SG.POSS-DAT 髪-1SG.POSS-ACC 切る-CAUS-PAST-1SG

使役の動詞 kestir-を用いて「私は母に髪を切らせた」と表現される。受恩恵の場合だけでなく、裏返しにあたる「被害」も同じく使役を用いて表現される。

Çanta-m-ı çal-dır-dı-m. 「私はかばんを盗まれた」
かばん-1SG.POSS-ACC 盗む-CAUS-PAST-1SG

(8a) 私は(自分の)体を洗った.

Ben yıka-n-dı-m.
私 洗う-REFL-PAST-1SG

⁹ 補助動詞 ver-に先行する副動詞接尾辞は通常の-(y)Aではなく-(y)Iとなり、正書法上は giriver-, açiver-のように一語で書かれる。なお Jaeckel and Erciyeş (2006: 420)のように、命令文での ver-の用法を「丁寧な依頼」(polite request)を表わすものとする見解も見られる。

yıkan-は他動詞 yıka-「洗う」に再帰の接尾辞-n-が付されたもので、「自分を洗う、入浴する」の意味をもつ。再帰的な動作はこのような再帰動詞によって表わされる以外に、再帰代名詞 kendi「自分」と非再帰動詞を用いて分析的にも表わされる。例えば動詞 yıkan-はある辞書では‘kendi kendini yıkamak, banyo yapmak’「自分自身を洗う、入浴する」のように言い換えられている。

(8b) 私は手を洗った。

Ben el-ler-im-i yıka-dı-m.
私 手-PL-1SGPOSS-ACC 洗う-PAST-1SG

(8c) 彼は手を洗った。

O el-ler-in-i yıka-dı.
彼 手-PL-3SGPOSS-ACC 洗う-PAST

(9) 私はその本を自分のために買った。

Ben o kitab-ı kendi-m için al-dı-m.
私 その 本-ACC 自分-1SGPOSS ために 買う-PAST-1SG

再帰の接尾辞-(*n*)-を付することができる動詞は語彙的に限られており、al-「買う」などは対応する再帰の動詞をもたない。再帰の動詞はその多くが「自分を... する」という意味を表わす自動詞であるが、yükle-「積む」に対する yüklen-や tak-「(アクセサリーなどを) 着ける」に対する takın-のように「自分に... する」に相当する意味を表わす他動詞も存在する。¹⁰

Çanta-m-ı sırt-ım-a yük-le-di-m. 「かばんを背中にかついだ」
かばん-1SGPOSS-ACC 背中-1SGPOSS-DAT 積む-PAST-1SG

Çanta-m-ı yük-le-n-di-m. 「かばんをかついだ (=自分に積んだ)」
かばん-1SGPOSS-ACC 積む-REFL-PAST-1SG

(10) 彼らは (互いに) 殴り合っていた。

Onlar döv-üş-üyor-lar-dı.
彼ら 殴る-RECIP-PRES¹¹-PL-PAST.COP

¹⁰ さらに giy-「(服を) 着る」(他動詞) に対する giyin-「身支度をする」(自動詞) も再帰動詞として扱われているが、ここでの接尾辞-in-の働きは他の再帰動詞一般の場合とはかなり異なるものである。

¹¹ ここで接尾辞-(*n*)yor は未完了アスペクトを表わしているが (菅原 2010:331, 註 4 を参照)、本稿のグロスでは便宜上 PRES を用いる。

Onlar birbirin-i döv-üyor-lar-dı.
 彼ら お互い-ACC 殴る-PRES-PL-PAST.COP

dövüş-「殴り合う」は動詞 döv-「殴る」に相互の接尾辞-üş-が付された相互の動詞である。相互的な動作は、このような相互の動詞によって表わされる以外に、相互代名詞 birbiri「お互い」を用いて分析的にも表される。¹² 両者の間には若干の意味（あるいはニュアンス）の違いがあるようであるが、相互の動詞の言い換えとして、相互代名詞と非相互動詞による「お互いを...する」が用いられることがある。例えばある辞書は dövüş-「殴り合う」の意味のひとつとして ‘birbirini dövmek, birbirine saldırıp boğuşmak’「お互いを殴る、お互いに攻撃し争う」をあげている。なお相互の接尾辞を付することができる動詞も語彙的に限られている。その一方で、名詞に接尾辞-laş-が付されて相互的な動作を表わす動詞が作られることがある：söz「言葉、約束」-sözleş-「約束を交わす、合意する」、e-mail「e-メール」-e-maileş-「メールのやり取りをし合う」など。

(11) その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。

Onlar (beraber) şehir-e doğru yol-a çık-tı.
 彼らは 一緒に 町-DAT 向かって 道-DAT 出る-PAST

相互の接尾辞-(l)ş-が相互の意味ではなく、多数からなる主語によって一斉にあるいはばらばらに行われる動作を表わすものに, kaç-「逃げる」に対する kaçış-「一斉に逃げ散らばる」、uç-「飛ぶ」に対する uçuş-「飛びかわす」などがある。

Kuş-lar ağaç-lar-da uç-uş-uyor-du.「鳥たちは木々の間で飛びかわしていた」
 鳥-PL 木-PL-LOC 飛ぶ-RECIP-PRES-PAST.COP

また oyna-「遊ぶ」に対する oynaş-「一緒に遊ぶ」、böl-「分ける」に対する bölüş-「分け合う」なども同じ接尾辞-(l)ş-による派生であるが、元の動詞の項構造を変えないという点で上記 kaçış-, uçuş-などと共通する性質をもつと言える。¹³

(12) その映画は泣ける（その映画を見ると泣いてしまう）。

O film-e ağla-n-ır.
 その 映画-DAT 泣く-PASS-AOR

¹² ちなみに相互の動詞を相互代名詞とともに用いるのは「誤用」とされている (Alpay 2007:124).

¹³ Göksel-Kerslake (2005:57)は, uçuş-「飛びかわす」や bölüş-「分け合う」などに含まれる接尾辞-(l)ş-を相互の接尾辞と区別して、派生接尾辞のひとつとして扱っている。

O film insan-ı ağla-t-ır.
その 映画 人-ACC 泣く-CAUS-AOR

無人称受動文を用いて「その映画に対して泣かれる (=皆が泣く)」とするか、使役を用いて「その映画は人を泣かせる」のように表現することができる。

(13a) 私は卵を割った。

Ben yumurta-yı kır-dı-m.
私 卵-ACC 割る-PAST-1SG

(13b) 《うっかり落として》私はコップを割った (割ってしまった)。

Ben bardağ-ım-ı kır-dı-m.
私 コップ-1SGPOSS-ACC 割る-PAST-1SG

Bardağ-ım kır-ıl-dı.
コップ-1SGPOSS 割る-PASS-PAST

他動詞 kır-を使った「私はコップを割った」、自動詞 kırıl-を使った「コップが割れた」のどちらも可能であるが、栗林 (2010:164) によれば、有責任性は他動詞表現と結びつくという。

(14a) きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった。

Dün çok kahve iç-tiğ-im için uyu-yama-dı-m.
昨日 多く コーヒー 飲む-PART-1SGPOSS ために 眠る-IPSB-PAST-1SG

Dün çok kahve iç-tiğ-im için uyku-m gel-me-di.
眠気-1SGPOSS 来る-NEG -PAST

後者の表現については(22b)を参照。

(14b) きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった。

Dün çok iş-im ol-duğ-u için uyu-ma-dı-m.
昨日 多く 仕事-1SGPOSS ある-PART-3SGPOSS ために 眠る-NEG -PAST-1SG

このような状況では(14a)のような不可能形 uyuyamadım は使えず、単純な否定形 uyumadım 「眠らなかった」か、あるいは uyumaya vaktim olmadı 「眠る時間がなかった」のような表

現を用いることになるという。

(15) 私は頭が痛い。

Benim baş-ım ağrı-yor.
私の 頭-1SG.POSS 痛む-PRES

トルコ語は二重主語構文をもたないため「私の頭が痛い」と表現される。

(16) あの女性は髪が長い。

O kadın-ın saç-ı uzun.
あの 女性-GEN 髪-3SG.POSS 長い

O kadın uzun saçlı.
あの 女性 長い 髪をもつ

O kadın-ın uzun saç-ı var.
あの 女-GEN 長い 髪-3SG.POSS ある

2番目の文は形容詞 saçlı「髪をもつ」を述語とする。3番目の文は存在を意味する述語 var「ある」を用いて「あの女性の長い髪がある」と表現されている。トルコ語には英語の haveにあたる動詞はなく、所有の意味はこの最後の構文で表わされるのが普通である。

(17a) 彼は手で友人の肩を叩いた。

El-i-yle arkadaş-ın-ın omz-un-a vur-du.
手-3SG.POSS-INST 友人-3SG.POSS-GEN 肩-3SG.POSS-DAT 打つ-PAST

「叩く」を意味するもっとも一般的な動詞 vur-は与格名詞句をとる。

(17b) 彼は私の手をとった。

O ben-i el-im-den tut-tu.
彼 私-ACC 手-1SG.POSS-ABL つかむ-PAST

対格をとる動詞である tut-「つかむ」では、人を対格で、部位を奪格で表わす上の構文が

よく用いられる。¹⁴ 「私の手」を対格においた *O benim elimi tuttu*. も可能であるが、両者の間には動作の対象が「私」(全体)であるか「私の手」(部分)であるかという違いがある。

(18a) 私は彼がやって来るのを見た。

Ben on-un gel-diğ-in-i gör-dü-m.
私 彼-GEN 来る-PART-3SG.POSS-ACC 見る-PAST-1SG

(18b) 私は彼が今日来ることを知っている。

Ben on-un bugün gel-eceğ-in-i bil-iyor-um.
私 彼-GEN 今日 来る-PART-3SG.POSS-ACC 知る-PRES-1SG

認識や伝達の動詞の補文述語は「形動詞+所有接尾辞+格接尾辞」の形をとる。主動詞との相対的な時間関係により、(18a)では非未来の形動詞-*DIK*, (18b)では未来の形動詞-(y)*AcAK* が用いられている。これに対して要求、必要や勧めを表わす述語は「動名詞+所有接尾辞+格接尾辞」の補文をとる。cf. (23).

Bana biraz yardım et-me-niz-i isti-yor-um.
私に 少し 手助けする-VN-2PL.POSS-ACC 欲する-PRES-1SG
「私に少し手助けしてほしい(あなたの手助けすることを欲する).」

Doktor-um bana yoga kurs-un-a git-me-m-i
医者-1SG.POSS 私に ヨガ コース-3SG.POSS-DAT 行く-VN-1SG.POSS-ACC
tavsiye et-ti.
勧める-PAST
「医者は私にヨガのコースに行くことを勧めた。」

(19) 彼は自分(のほう)が勝つと思った。

O kendin-i kazan-acak san-dı.
彼 自分-ACC 勝つ-FUT 思う-PAST

いわゆる「小節」を含む文である。同じ内容は上述した通常の補文を用いて次のようにも

¹⁴ 同じく対格動詞である *vur-*「撃つ」も同様の構文を作ることができる。

Polis zanlı-yı sol bacağı-n-dan vur-du. 「警官は容疑者の左脚を撃った」
警官 容疑者-ACC 左 脚-3SG.POSS-ABL 撃つ-PAST
またこれらを受動文にすることも可能である：*Elimden tutuldum.* 「私は手をつかまれた」；*Zanlı sol bacağından vuruldu.* 「容疑者は左脚を撃たれた」。

表現できる.

O kendin-in kazan-acağ-in-ı san-di.
 彼 自分-GEN 勝つ-PART-3SG.POSS-ACC 思う-PAST

小節が動詞述語を含まない場合は次のようになる.

O kendin-i ünlü san-ıyor. 「彼は自分を有名だと思っている」
 彼 自分-ACC 有名な 思う-PRES

(20a) 私は (コップの) 水 (の一部) を飲んだ.

Ben bardak-ta-ki su-dan iç-ti-m.
 私 コップ-LOC-ki¹⁵ 水-ABL 飲む-PAST-1SG

(20b) 私は (コップの) 水を全部飲んだ.

Ben bardak-ta-ki suyun tamam-in-i iç-ti-m.
 私 コップ-LOC-ki 水-GEN 全部-3SG.POSS-ACC 飲む-PAST-1SG

(21) あの人は肉を食べない.

O kişi et ye-mez. / ye-mi-yor.
 あの 人 肉 食べる-NEGAOR / 食べる-NEG-PRES

(22a) 今日は寒い.

Bugün hava soğuk.
 今日 天気 寒い

(22b) 私は (何だか) 寒い (私には寒く感じる).

Ben üşü-yor-um.
 私 寒く感じる-PRES-1SG

üşü-は「(人が) 寒く感じる」という意味を表わす動詞である。ここでは主体が主語になっているが、知覚・感覚を表わす場合にしばしば用いられる構文として、事物を主語とし、主体は所有接尾辞の形で文中の名詞に付加されて表わされるものがある。

Uyku-m gel-di. 「(私は) 眠くなった (=私の眠気がやって来た)」
 眠気-1SG.POSS 来る-PAST

¹⁵ 接尾辞-ki は位置格名詞句を修飾語に変える働きをする。

Can-ım hiçbir şey yap-mak iste-mi-yor. 「(私は) 何もする気がしない」
命-1SG.POSS 何も する-VN 欲する-NEG-PRES

Bir şey dikkat-im-i çek-ti. 「あることが私の注意を引いた」
あること 注意-1SG.POSS-ACC 引く-PAST

(23) 私は人がとても多いのに驚いた.

Bu kadar insan ol-ma-sın-a şaşır-dı-m.
これほど 人 いる-VN-3SG.POSS-DAT 驚く-PAST-1SG

Göksel - Kerslake (2005:429)によれば *sevin-*「喜ぶ」、*üzül-*「悲しむ」などの感覚動詞を述語とする文では、形動詞による補文と動名詞による補文のいずれも可能であるという。¹⁶ その一方でインフォーマントによれば(23)で動名詞 *olmasına* に代えて形動詞 *olduğuna* を用いることはできないという。

(24) 雨が降ってきた.

Yağmur yağ-ma-ya başla-dı.
雨 降る-VN-DAT 始める-PAST

(25) その本は良く売れる.

O kitap iyi sat-ar / sat-ıyor.
その 本 よく 売る-AOR / 売る-PRES

kitab 「本」を主語に置き、他動詞 *sat-*「売る」をそのまま用いて表現される。また他動詞 *kes-*「切る」、*yaz-*「書く」では道具を主語に置いた *Bu bıçak iyi keser.*「このナイフは良く切れる」; *Bu kalem iyi yazmaz.*「このペンは良く書けない」のような表現が可能である。¹⁷

¹⁶ 'The *-DIK/-(y)AcAK* forms are fully interchangeable with *-mA* in such contexts (...)'. .

¹⁷ さらに「書かれている(書いてある)」も動詞 *yaz-*の能動形を用いて表わされる。 *Krem-in üretim ve son kullanma tarih-i ambalaj-in-in alt-in-da yaz-ıyor.* 「クリームの製造・最終消費年月日は包装の下に書いてあります」(クリーム-GEN 製造 と 最終消費 日付-3SG.POSS 包装-3SG.POSS-GEN 下-3SG.POSS-LOC 書く-PRES)

略号

ABL	奪格	PASS	受動／自動詞化
ACC	対格	PAST	過去
AOR	中立（形）	PAST.COP	過去のコピュラ
CAUS	使役	PL	複数
DAT	与格	POSS	所有接尾辞
FUT	未来	PRES	現在
GEN	所有格	RECIP	相互
IMP	命令	REFL	再帰
INST	共同・手段格	SG	単数
IPSB	不可能	VN	動名詞
LOC	位格	1	1人称
NEG	否定	2	2人称
PART	分詞	3	3人称

参考文献

- Alpay, Necmiye. 2007. *Türkçe Sorunları Kılavuzu* (gözden geçirilmiş üçüncü baskı), Metis Yayınları, İstanbul.
- Göksel, Aslı and Kerslake, Celia. 2005. *Turkish. A Comprehensive Grammar*, Routledge, London.
- Jaeckel, Ralph and Erciyeş, Gülnur Doğanata (with the collaboration of Mehmet Süreyya Er). 2006. *A Dictionary of Turkish Verbs in Context and by Theme*, Georgetown University Press, Washington, D. C.
- 栗林裕. 2010. 「第九章 自動詞と他動詞」 栗林裕『チュルク語南西グループの構造と記述 トルコ語の語形成と周辺言語の言語接触』くろしお出版, pp. 157-179.
- 菅原睦. 2010. 「トルコ語のアスペクト（特集「アスペクト」のためのデータ）」『語学研究所論集』15, pp. 330-337.
- Underhill, Robert. 1985. *Turkish Grammar*, MIT Press, Cambridge, Mass.